

## 北海道内の広域で発生した新害虫はヘリキスジノメイガだった

A New Insect Pest Appearing across a Broad Area of Hokkaido Turns out to be the Beet Webworm *Margaritita sticticalis* (Linnaeus)

吉松慎一\*・岩崎暁生\*\*

Shin-ichi Yoshimatsu and Akeo Iwasaki

### 要約

2008年夏北海道内の広域においてダイズやニンジンなど多種類の作物を加害する見慣れないチョウ目幼虫が多発生した。羽化させた成虫を詳細に調べたところ、これまでわが国では害虫としての記録がないヘリキスジノメイガであることが分かった。

### 背景と目的

2008年8月中旬から9月にかけて、石狩・空知・後志・上川・留萌・網走・宗谷支庁管内で、これまで発生を認めなかったことのないチョウ目幼虫が多種類の作物を加害している事例が多数確認された(図1)。発生地域が広く、深刻な被害を受けているほ場も多いことから、早急な同定が求められたが、幼虫による同定は困難であるため、加害中の幼虫を飼育し、羽化させた成虫によって、種名を同定することにした。

### 成果の内容

北海道立中央農業試験場内(夕張郡長沼町)で、2008年8月下旬、作物を加害中の幼虫を採集し(図2)、飼育したところ、同年9月中旬、5個体の成虫(図3左)を羽化させることができた。この羽化成虫の形態を詳細に検討したところ、ツトガ科ヘリキスジノメイガ *Margaritita sticticalis* (Linnaeus)と同定することができた。また、同じ場所の野外に設置されたライトトラップで8月4日から8月30日までに誘殺された本種と思われる530個体の標本を検討したところ、すべて同じヘリキスジノメイガであることが分かった。他の地域で確認された同じ形態をもつ幼虫も同様に本種であると考えられた。

本種は、ヨーロッパからロシア、中国、アメリカ、カナダなどの広域に分布する移動性の害虫で、様々な種類の作物に被害を与えることが報告されている。今回、北海道では他にアズキ、テンサイ、カボチャ、シロクローバーやアルファルファなどの牧草への加害も認められた。わが国では、これまで成虫の採集記録しかなく、幼虫の発生や作物への加害事例は確認されてなかった。

今回の多発生は、2008年春以降に大陸から北海道へ飛来した本種成虫の産卵に起因する後世代の増殖が原因であると考えられた。本種は、冬季は土中でまゆを作って越冬するので、それが翌春以降の発生につながる可能性がある。また、成虫は、これまで本州や九州でも採集されているので、北海道以外においても本種の発生に十分注意する必要がある。

---

\*農業環境インベントリーセンター \*\*北海道立中央農業試験場  
Natural Resources Inventory Center, Central Agricultural Experiment Station  
インベントリー, 第8号, p2-3 (2010)



図1 ヘリクスジノメイガによるダイズほ場の被害

ほ場周縁部の白くなった部分が被害植物である。幼虫は葉脈部を残して葉肉部を食べるので加害された植物体は白く見える。



図2 ヘリクスジノメイガの幼虫

幼虫は老熟すると体長約 25 mm になる。頭部は黒褐色、胴部は黒色で、胴部側方には乳白色の幅広い帯を持つ。体が淡色の個体も少数ながら見つかる。



図3 ヘリクスジノメイガの成虫

翅は全体的に茶褐色で、前翅外縁部に沿って縦長の黄色い斑紋がある。

左に今回飼育して得た生きた成虫を、右に 1982 年 8 月 12 日に北海道知床で採集された標本を図示した。

#### 問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター 吉松慎一

電話：029-838-8348, E-mail：yosimatu@affrc.go.jp